

西光寺だより

第二三九号 令和四年 三月一日発行

●今月のことば

あたりまえ

新型コロナウイルスの感染が拡大して2年。

大切な人と顔を合わすという、私たちにとって、とても大切なあたりまえを奪っています。それでもなんとか取り戻そうとマスクをしながらの生活を送っています。

今ではマスクをして会うことがあたりまえになり、相手の目だけを見て話すことにも残念ながら慣れてきました。それゆえに、相手の表情すべてをしつかりと見て話すことが出来た時は嬉しさを感じることであります。

けれど、その嬉しさもマスク生活にならなければ感じられなかったのかもしれない。不自由な暮らしが続く中でよく聞く「あたりまえ」の有難さ。

私たちは得てして「失ったときに初めて気づく」ことがあります。健康であることの有難さも、体調を崩してやっと気づけたり、あたりまえのように息をしていることも、鼻が詰まって息がしづらくなったりと気づけたり。

そんないつもと違う不自由を感じる時、心底ありがたいことだったと気づかされます。

先日ある新門徒様のご葬儀を執り行いました。コロナに感染されたおばあ様のご葬儀。

病院より、「ご家族とのご遺体のご対面・お別れもなく直接斎場へと。そしてお骨となられ、ご自宅に帰っていらっしやいました。

ご家族・近しい人だけのご葬儀のお勤めを、自宅でさせていたいただきました。

普通にお通夜・ご葬儀ではない、あたりまえでない時間を過ごしたことでもあります。

こうして目の当たりにすると今までのあたりまえの景色が一変したことを感じました。日常を大きく変えた新型コロナウイルスは大切な人との別れにまであたりまえを奪っている。

けれど、どんな人生でも、どんな環境でも、阿弥陀さまは、「南無阿弥陀仏」のお念仏となつて至り届き、

「あなたのいのち、いつでもどんなふうにも終えようとも、私が必ずお浄土に生まれさせ仏にするから、どうかそのいのち、仏さまになる尊いいのちとして、その人生を歩んでおくれ」

とよびかけて下さっています。(本願寺新報)
失わなければなかなか大切なことに気づけない私ですが、失わなくても気づかせていただけることがある。

それが「南無阿弥陀仏」のお念仏であります。

日常の中に阿弥陀さまのお呼び声が聞こえる生活を送りながら、そのいのちの意味だけは決して見失わないよう歩んでいきたいと思います。

合掌



◆先月の報告◆

二月二十八日(日) 西光寺本堂にて吉川家初参式を行いました。
コロナ禍ではありますが、新たな命の誕生を阿弥陀さまにご報告させていただきます。
いのちのつながりに感謝申し上げ、十二礼のお勤め・お焼香を致しました。
ようこそ、お参りくださいました。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

◆三・四月の行事◆

三月

~~仏教婦人会総会・追弔会~~

西光寺本堂

※コロナ禍のため、中止とさせていただきます。

※仏教婦人会会員の方々には、四月初旬に書面にて総会での連絡事項(会計・行事報告)を配布させていただきます。

・四月 二日(土)

春季永代経法要

午後二時〜

正信偈

西光寺本堂

※感染対策のため、お勤めのみと致します。

※お身体にご不安な方はご遠慮ください。